

	一般的名称	報告の概要
208	ホスフェストロール	母親が妊娠中にジェチルスチルベストロールを投与されている場合、新生児で尿道下裂の発症リスクが高まることが示唆された。
209	臭化パンクロニウム	先天性横隔膜ヘルニアの患者でECMO非施行例において、パンクロニウムの投与量が高い、または使用日数が長い場合は難聴となる可能性が高まることが示唆された。
210	臭化パンクロニウム	臭化パンクロニウムを投与された、重症の先天性横隔膜ヘルニアの患者4名で、投与遅発性感音性難聴が見られた。
211	カルバマゼピン	カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタールの投与で発疹が発現した現疾患の確定可能な0-8歳の入院患者でHLAを検討したところ、HLA-A*2402が最も多く、HLA-C*0102が次に多かった。
212	アセトアミノフェン	出生前のアセトアミノフェンの頻繁な暴露は、アトピーのない小児で重大な喘息のリスクファクターであることが示唆された。
213	アルプロスタジル	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽バーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
214	カプロン酸ヒドロキシプロゲステロン	経口プロゲステロンの4.5年を越える長期の使用は、閉経前の女性の乳癌発症リスクを高めることが示唆された。
215	ホリナートカルシウム	Dukes BとCの結腸癌患者910例を対象とした術後補助療法としてのフルオロウラシル/葉酸/イリノテカン(CPT-11)併用療法とフルオロウラシル/葉酸併用療法を比較したPhase III試験において、両群で各3例死亡した。
216	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者52例を対象としたcetuximab/オキサリプラチン/葉酸(FUFOX)併用療法のPhase II試験において、過敏症反応と敗血症性下痢症で2例が死亡した。
217	レボホリナートカルシウム	転移性胃癌患者31例を対象としたドセタキセル/シスプラチン/ト-葉酸/フルオロウラシル併用療法のPhase II試験において、腸穿孔と敗血症により2例が死亡した。
218	レボホリナートカルシウム	局所進行食道胃癌患者126例を対象とした術前化学療法(CTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸)と術前化学放射線併用療法(CRTX:シスプラチン/フルオロウラシル/葉酸/エトポシド/放射線)を比較するランダム化Phase III試験において、手術後にCTX群で5例、CRTX群で5例が死亡した。
219	プレドニゾン	プレドニゾンを含む免疫抑制剤の投与を受けている女性は、肛門性器腫瘍を有する率が高いことが示唆された。
220	イトラコナゾール	健康被検者12例を対象としたネビラピンとイトラコナゾールの併用試験において、イトラコナゾールのCmax,AUC,T1/2が有意に減少した。
221	エストラジオール	閉経後ホルモンの使用により、全身性エリテマトーデス(SLE)の発症リスクが高まることが示唆された。
222	ケトコナゾール	健康人において、ケトコナゾールとprasugrelやクロピドグレルを併用すると、クロピドグレル代謝物のCmax、AUCを減少させることが示唆された。
223	イトラコナゾール	ヒツジを用いた比較試験において、胃内投与によりイベルメクチンとイトラコナゾールを併用すると、イベルメクチンのAUC,Cmaxが有意に上昇した。
224	塩酸バンコマイシン	サンフランシスコにてバンコマイシン耐性菌(MIC8 μ g/mL)が分離された。
225	塩酸バンコマイシン	インドにて糖尿病患者から分離されたオキサシリン、ゲンタマイシン耐性黄色ブドウ球菌がバンコマイシン耐性を示した(MIC8 μ g/mL)。
226	塩酸ミキサントロン	ダウン症の急性骨髄性白血病患者57例を対象とした調査において、RSウイルス敗血症、うつ血性心不全、呼吸器疾患、原因不明で6例が死亡した。